果樹

11月の柑橘園管理

果　樹
白石　一斗
下島営農指導センター
080-1729-1633

11月下旬より早生温州の出荷が始まりますので、収穫前の貯蔵病害対策を実施してください。

1. 病害虫防除

対象品種	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数		使用回数		備考
				温州	中晩柑	温州	中晩柑	
温州みかん	貯蔵病害	ベフラン液剤25	2,000倍	前日まで		3回	2回	混　用
		ベンレート水和剤	4,000倍	前日まで		4回	2回	
共通	ミカンハダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	7日前まで		1回		発生時
		ダニコングフロアブル	3,000倍	前日まで		1回		
		コロマイト水和剤	2,000倍	7日前まで		2回		

※ダニ剤のコロマイト水和剤については2回使用ができますが抵抗性回避の為、1回の使用をお願いします。

2. 温州みかんの着色促進及び浮皮軽減

回数	時　期	薬剤及び希釈倍数
2回目	10月中～11月上旬 (5～6分着色時)	サルファーゾル　400倍 加用　シリカブロー　1,000倍

3. 河内晩柑の落果対策

着色が始まると河内晩柑ではヘタ部で離層が形成され、特に大玉では落果しやすくなります。着色状況、気象に注意し、低温予報前には散布を行いましょう。また、落果の多い園地では尿素500倍～1,000倍を加用し、落果抑制効果を高めましょう。(ヘタ部を中心に念入りに散布する事が落果させないコツ!)

時　期	薬剤及び希釈倍数
11月上旬～ (4～5分着色時)	マデックEW　2,000倍

※マデックEWは年1回の使用となっておりますので、すでに使用された園では使用しないようご注意下さい。

4. デコポン・ポンカンの水腐れ軽減対策

デコポン・ポンカンでは水腐れ軽減のためにジベレリンを散布し、青果率向上を行いましょう。

また散布適期を逃さない様、貯蔵病害の薬剤散布前に単剤で行いましょう。

○ジベレリン液剤40mlの場合

対象品種	薬剤名	使用濃度	1ビン当たりの水量	使用液量	実施時期	収穫前日数
デコポン	ジベレリン液剤	0.5ppm	400ℓ	50～500ℓ／10a	着色終期	7日前まで
		1ppm	200ℓ			
ポンカン	ジベレリン液剤	0.5ppm	400ℓ		着色始期～4部着色期	21日前まで

5. 施肥

施肥時期	品種名	肥料名	10a当たり施肥量
11月上旬	ポンカン・清見・河内晩柑・甘夏・パール柑	熊本果樹肥料10－7－4	3袋
	デコポン	熊本デコポン8－3－3 又はひのくに果樹9－3－3	3袋

6. 秋芽の処理

9月以降に発生した秋芽で緑化したものは1節1本だけ残すようにし、他は欠ぐようにしましょう。

徒長枝や緑化していない秋芽など、邪魔になるような枝は最小限せん定を行いましょう。

花卉

灰色かび病について

花　卉
竹川　慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

・発生の特徴

灰色かび病は寄生範囲が広く、ほとんどの植物で発生します。低温多湿を好むので秋口～冬の初め頃の気温がやや低く、湿度の高い、雨が多くて日照が不足しがちな時期に発生が多くなります。発病適温は15℃～20℃で結露時間が長くなると多発し、植物体表面やその付近が結露しやすい環境下で発生しやすい。

・被害症状

花、茎、葉が溶けるように腐り、さらに病気が進行すると灰色のカビに覆われ、同時に灰色がかった粉(胞子)を多量に形成します。花では始め、花弁に水滴がにじんだ様な跡がつき、白い花では赤い斑点、色のついた花では白い斑点が多数生じます。病気が進行すると花が褐色になり腐ってきて、やがて灰色のカビに覆われます。

トルコギキョウ被害

スターチス被害

金魚草被害

・防除方法

灰色カビ病は湿度を好むので水のやりすぎに注意し、なるべく晴天時に行います。そしてハウス内は風通しをよくして十分な換気をします。枯れた部分にも病原菌がの残っているので取り除きます。病原菌は害虫の食害跡やしおれた花弁、チッソ過多により軟弱に育った植物組織などから侵入するので害虫を防除したり、肥培管理を適切にすることでも予防できます。殺菌剤ではフルピカフロアブル、ボトキラー水和剤、エムダイファー水和剤、ポリオキシンＡＬ水和剤等が花き類での登録があり、なるべく同じ剤は使わないようローテションでの散布を1週間～10日おきに散布し予防します。

※農薬散布に薬害などありますので営農センターへお問い合わせ下さい。

野菜

施設栽培における省エネ対策

野　菜
平田　優輝
下島営農指導センター
080-1729-1639

原油価格が高止まりしているなか、農家の経営にも影響をきたしています。そこで、我が家でもできることをもう一度、見直していただければと思います。

1．ハウスの気密性を高める。

⑴ビニールの破れや隙間を無くす。
⑵出入り口の内外にフィルムを張り、冷機の流入を防ぐ。
⑶谷部、サイドは、妻面から１．５m程度重ね代をとって、風の侵入を防ぐ。

2．多重被覆を導入する。

⑴可能な限り多重被覆を導入する。
⑵カーテンが変質したり、破れたりしている場合は交換または補修する。
⑶寡日照、高温、多湿対策として日中に換気や病害虫防除を行う。

3．夜間は変温管理を行う。

⑴夜間の設定温度は、４段サーモなどを活用した温度管理を行う。
⑵品質や収量に影響のない設定温度で管理を行う。

4．暖房効率を高める。

⑴暖房機の熱交換面を清掃する。
⑵暖房機のノズルの交換、空気量の調整をする。
⑶温度センサー一は生育ステージに合わせる等適切な位置に設置する。
⑷温風ダクトの配置は、穴の間隔、ダクト間隔を調整する等適正に配置する。
⑸循環扇等の利用により、温度ムラを少なくし、過剰暖房を防ぐようにする。

5．栽培管理の工夫を行う。

⑴整枝、誘引、摘葉等適期管理を行い、採光を図る。
⑵品目によって異なるが、夕方適温で、ハウスを閉めて保温する。
⑶ハウス北側の妻面やサイド部を防寒資材で被覆する。
⑷節油のあまり、適温を下回る管理をしない。

※収量が上がらなくては意味がありません。人体もそうですが、農産物も温度変化には敏感です。農産物を守るのは作物を作る生産者です。

天草税務署からのお知らせ

◆熊本国税局猶予相談センターのご案内

熊本国税局猶予相談センターでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、国税を一時に納付することが困難な方からの、猶予制度に関する質問や相談を専門にお受けしています。

猶予制度についてのご相談がある方は、まずは、国税局猶予相談センター（専用ダイヤル　0120-948-540）にお電話でご相談ください。

【受付時間】
８：30 ～ 17：00（土日祝日を除く）